



ぴよんぴよんはねる

校長 田中秋人

あけましておめでとうございます。今年の横浜での年越しは、寒さの厳しさはありましたが空まで届きそうな青空のもと、とても穏やかな日々となりました。児童をはじめ保護者、地域の皆様も新春の穏やかな日差しを浴びて、新年を迎えられたことと思います。昨年12月23日の帰り際、昇降口で子どもたちの下校の様子を見守っていると子どもたちから「校長先生さようなら！ 良いお年を〜！」と声をかけてもらいました。この子たちにとって、とても楽しい冬休みなのだろうか元気一杯の声から感じられ、心地よい声を耳に残したまま冬休みを迎えました。きっとそれぞれが楽しい冬休みを過ごし、気持ち新たに新年を迎え、自分なりの今年の目標をもち、今日の冬休み明けを迎えたことと思います。保護者、地域の皆さんはどのような抱負をもたれたことでしょうか。

さて、今年卯年です。『うさぎ』というどのようなイメージをもたれるでしょうか。私は、長い耳で目が丸く、ふわふわの毛がかわいらしいイメージをもっています。調べてみるとやはり一般的にもおとなしく穏やかな性格から「家内安全」や「子孫繁栄」、前向きに飛び跳ねる姿から「飛躍」や「向上」を表すといわれているそうです。また、長い耳から「福を集める」とも言われています。古来より月の使いとも言われ、「ツキを呼ぶ」縁起の良い動物として信じられています。とても縁起のよい動物だということわかります。

本校の学校教育目標は、4月の学校便りなどでもお知らせしましたが『見つけ 認め とともに生きる』です。お互いの良さを見つけること、多様性を認め合うこと、助け合うこと、これらの目標は一人では達成できず、友達をはじめとする仲間がいなければ達成することができないものです。この学校教育目標を達成するために、また児童が安心して友達の良いところを見つける環境をつくるために、卯年の今年改めて「学校安全」を目指し、児童一人ひとりの「飛躍」や「向上」を支援していきたいと思います。またうさぎの長い耳を生かして児童のみならず、保護者、地域の皆様の声を集めて、学校教育に生かしていきたいと感じています。

最後になりますが本年は十干十二支(じっかんじゅうにし)でいうと「癸卯(みずのとう)」です。「癸」は順序で言えば最後にあたり、一つの物事が収まり次の物事への移行をしていく段階を表しています。2023年を一つの物事の収まり、そして次の物事へのスタートとし、時代の潮流を感じつつ、物事の振り返りをしっかりと行い、将来の舞岡の町を担う子どもの育成を続けていきたいと改めて強く感じました。ここからが寒さも本番となりますが、引き続き寒さに負けない温かいご支援ご協力をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。